

赤とんぼの会・平和講演会 『時代の子』として 澤地さんが語っていただきました

7月19日(土) ホルトホール大会議室で待望の澤地久枝さんの講演会を開催しました。450名の参加でした。

澤地さんは長年、数々のノンフィクション作品を通じて過去の戦争を検証してきた方です。現場に居た人に直接会い取材をし、ひとつひとつの事実をつみ重ね、軍部が行ってきた謀略、独断越境、独断軍事力行使を暴いてきました。満州事変の発端そのものがまぎれもない謀略行為であったとおっしゃっています。

講演会のあとも反響が大きく、今年の意見広告は多数の新しい方々が参加してくれました。

澤地さんの著作「わたしのかかげる小さな旗」の扉に掲げられた「二〇〇〇年の秋に」という詩をご紹介します。講演会当日、澤地さんが朗読される予定だったのですが、時間の都合で割愛されてしまったので、みなさんにぜひ読んでいただきたいのです。

浮かびあがる澤地さんの姿は、赤とんぼの思いに通じるものです。

『時代の子』と

講師/作家澤地久枝さん



二〇〇〇年の秋に

生まれたのは一九三〇年・昭和五年秋。

不景気のどん底で生を受けた。

前途の見えなかった社会は、

いつか満州事変、日中戦争へと

方向を定めてゆき、

一九四一年十二月八日をむかえる。

その日、十一歳。

子供の領域に属して

無知なるまま、

聖戦を信じ、みずからが

生きのこることは許さない

ひそかに思っていた子供。

一九四五年八月、敗戦の日十四歳。

あの日をさかいに、

それまで頭上をおおっていた

国家と軍隊、それにつらなるいっさいが、

きれいに消えていった。

難民の一人となり、同胞の辛酸のかたわらで

なにも力になれず、

わが身とわが一家の

生きのびる道を探した一年間。

子供がおとな以上の責任を負い、

試験にさらされた日をどうして忘れようか。

政治に対するわたしの初心は

難民としての体験から芽ばえた。

それから五十五年。

かわらず、かわりたくない

かたくななわたしがいる。

「自衛隊は憲法に違反し、

新世紀に日米安保条約は見直されるべき」

この、ごく常識的な発言をするのに、

勇気を試される時代がついにきた。

信ずるままを、飽くことなく言う。

それ以外、わたしのよう人間には

生きてゆく道はない。

投げつけられる非難の言葉が、

「バカ」であったり「アカ」であっても、

それにたじろぐまい。

無視され疎外されようとも、

わたしはわたしの道をゆこう。

すべては「個」から、

「一人」からはじまり、

いかなる「一人」になるかを決めるのは、

己れ自身である。

いま、あえてかかげようとする旗は、

ささやかで小さい。

小さいけれど、誰にも蹂躪されることを

許さないわたしの旗である。

かかげつづけることにわたしの志があり、

わたしの生きる理由はある。

二〇〇〇年九月三日



お便り紹介

澤地さんが

れ各同行者の別れ

あつととき

涙腺

涙つもの多い



素晴らしい澤地先生の講演会で感銘ひとしおでした。先生が「赤とんぼの会」の来し方を心を込めて受けとって下さっていることがひしひしと伝わり、良き広報をして下さったと思います。先生のお話に出た黒田杏子さんの「手紙歳時記」をタベあらためて再読。十一月の一章に小田実が亡くなる直前の交流が生きいきと記録されて

います。

杏子さんの俳句仲間、細谷亮太は聖路加国際病院のドクター。小田は即当病院へ移され、緩和ケアを受ける。凄じ絆です。

空いた席に男性が一人座っている横へ。チラッと横顔を拝見したら、何と得三郎さんでした。一寸だけお話しできて、とてもうれしゅうございました。

「春暁の土をざくりと掘り起す」少年時代の小田実の句
「月に棲む俳句少年小田実」
黒田杏子の句
(大分市 T・Sさん)

生活の

うつわ即ち

わが地球

えを済す人前

けもの劣子



7/19 澤地久枝さんの講演会DVD

赤とんぼの会員さん向けにコピーしていただけます。必要な方は、事務局携帯

090-11166-4218 (日高)

まで御連絡下さい。諸費用として、500円(送料込み)を

●赤とんぼの会郵便振替口座
01540-0112160
にお振込お願いします。

3つの署名 8月25日現在

●集团的自衛権行使容認反対署名 432筆

●憲法第9条を持つ日本国民にノーベル平和賞を、署名 141筆

●「さよなら原発」一千万署名 160筆

これまで集まった署名は8月末までに呼びかけ団体に送ります。ご協力ありがとうございました。まだまだ続けます！

今年の意見広告紙

必要な方は、事務局までご連絡いただければ郵送します。

昨年末、強引に国会で可決されてしまった特定秘密保護法。

内閣官房が特定秘密保護法施行令(案)に対する意見募集を7月24日～8月24日までしていました。事前に知っていたら前回の会報でお知らせできたのに。情報を知らず、期間が過ぎてしまいました。残念です。報道ちゃんとされてたのかなあ……？

パブコメのあとは情報保全諮問会議(読売新聞の渡辺恒雄氏が座長)を経て、またまた国会を無視して閣議決定するようです。全く、法律や政令の決め方まで秘密主義です。

ずつと赤とんぼ世話人を引き受けて下さっていた上野寿美子さんが8月13日に亡くなりました。佐賀関の海岸をきれいにする活動を提唱し、25年間続けてこられた方です。いつも凜とした美しい方でした。今年も7月始めには早々と意見広告費を振込んで下さっていました。

訃報

8月15日の葬儀には、意見広告紙を棺におさめていただきました。まだ還暦になるかならないかの同世代が次々いってしまいます。(れ

ご冥福、お祈りいたします。

年表を読む(その二)

古庄 ゆき子

お読みになった方も多いかと思いますが、この夏、某日の新聞が、お盆休みで山口へ帰って来た総理大臣安倍晋三氏が、おじいさんである岸信介氏のお墓詣りをしたと報じていました。

普通の人でしたら、勤めで多忙な孫が、少しの休みを使って祖父の墓に詣るといのはゆかしい話になるでしょうが、この祖父と孫は、日本国憲法をひどく嫌い、何としてでもこれを壊そうとした人、いま現在、その動きを活発にしている人なので、安倍氏が祖父へ何を祈り、誓ったか、この人々によつて日本国憲法がいまにも殺されそうになっていることに歯ざりしていている人間の一人として知り

たいと思います。

A級戦犯容疑者であった岸氏が、GHQに釈放されたのは一九四八(昭和二三)年でした。そして五七年には総理大臣となります。戦争責任など全く無縁の人のようです。こういう人を総理大臣にしてしまっている私たちの人の好きを情けなく思わずにはいられません。彼は六〇年の日米安保条約締結の立役者になったのですが、自衛の範囲なら核兵器は保有できると国会で答弁。また在日米軍基地への攻撃は日本への侵略とみるとも答弁しました。勝手な解釈をつけて、憲法の命を絶つこと、アメリカ追従をやった人です。そして一九六九年五月三日には自主憲法制定会議を結成、会長となります。安倍晋三氏は、この人のよい孫なのです。



連絡/080-1762-0900 (中山田)

さよなら
原発
ハハハレ

日時/9月21日(日)
10:30~
場所/大手公園

憲法・教育基本法市民連続講座

●第2回 「教育の国家統制に 対峙する」

講師/村山 太亮さん
(大分県教職員組合)

日時/9月7日(日) 13:30~
場所/コンパルホール 視聴覚室

●第3回 「オスプレイ配備と 辺野古新基地建設の今」

講師/安次 富浩さん
(ヘリ基地反対協議会代表委員)

日時/12月6日(土) 13:30~
場所/ホルトホール 201・202

入場カンパ/1,000円
主催/憲法・教育基本法改悪に
反対する市民連絡会おおいだ
連絡/090-4583-8797(池田)

名もなきひとむれ

12月8日(月) 13:30~
大分トキハ前

「九条の会・うすき」10周年

「アーサー・ビナード 記念講演会」

日時/11月22日(土)
13:00~15:30 サイン会有
場所/臼杵市民会館 大ホール
参加費/前売1,000円 当日1,200円
小中学生 無料/大学生割引有
連絡/090-5725-6187(奥田)

九州民間教育研究大分集会

仮題「日本はいまどこにいて、 これからどこに向かうのか」

講師/小森 陽一さん
(東京大学大学院 教授)
日時/12月26日(金) 10:00~
場所/コンパルホール 文化ホール
参加費/1,000円 (講演のみ)
※当日受付もしますが、できるだけ事前にご連絡ください
主催/大分県民間教育研究団体連絡会
連絡/090-3079-7924(岡本)

◆編集後記◆

澤地さんはとても優しい方でした。
真に強い人は優しい人と納得です。◎

声に出して読んでみましよう憲法九条

「戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権否認」

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段として、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国防の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 千八七〇八五五 大分市豊饒四組 みんなの家

TEL/FAX/097(544)8892(郵便振込)015400012160
ホームページ/htp://aka-tombo.com/メール/aka-tombo@hotmail.co.jp